

■カソマブグー村に苗畑組合が発足！

2023年9月、サヘルの森が活動しているファナ地域のカソマブグー村に苗木生産者組合が発足しました。

カソマブグー村は、サヘルの森がファナ地域で活動し始めた頃から関わってきた村です。現在、サヘルの森が試験地を設置して、里山再生のための技術を開発している村でもあります。この村には、サヘルの森がこれまで地域のリーダーとして育ててきた実践者が3人（内一人が年齢のためリタイヤ）、新実践者が2人いて、組合は彼らを中心として組織されています。

組合結成には、目的や代表、事務局長、会計役などの役員などを定め、州の役所に届けます。今回発足した組合では、代表に新実践者のブラマ・ジャラ、事務局長に実践者のバルー・ジャラ、会計役に新実践者のバラシネ・クリバリを据え、他のメンバー3人を加えて、昨年申請していました。ちょうど1年ほど経った先日、組合が承認され、めでたく組合が発足しました。

この組合の目的は、①ジーシラ（雨期の水の通り道）や非耕作地への植林と②メンバーが積み立てる基金を通じて、村の発展に寄与することです。組合としては今のメンバーに留まらず、活動に賛同する他の村人へも門戸を開いているとともに、基金についても村人への貸付も想定して拡大していく構想のようです。これまで何回かお伝えしてきたように、カソマブグー村周辺でも幹線道路を中心に土地の分譲が進み、分譲地を取得したバマコの住民がそれらの土地を開発して、植林をするケースが多くなっています。その際、組合があると個人で苗畑を営んでいるよりも、苗木を入手したい彼らが容易にアクセスできるといいます。マリでもSNSで情報が拡散するこの時代、組合という形態は信用がおけると判断されるのでしょうか。また、何か組合で事業を起こす際にも、銀行からの融資が受けやすくなります。

このアイデアはどこから来たのかと聞くと、昨年サヘルの森の活動の視察に訪れた、マリ国環境省・環境持続的開発機構（AEDD）のジャッロ氏から教わったと言います。現在、承認はされたものの、メンバーは皆、農作物の収穫に忙しいので、収穫後に活動計画などを立てて、組合としての活動を始めます。サヘルの森としては個人にクローズアップして活動を進めてきたわけですが、図らずもこの苗木生産者組合ができたことで、彼らの活動がどうなるかを見守りながら、会としての関わりも模索していきたいと思います。

ジャッロ氏（中央）と話す
カソマブグー村の実践者たち



■マリ人同士で進めるサハルの森の活動

ここ数年、治安の関係もあって、日本人スタッフがファナ地域の現場に足を運ぶことができていません。しかし、現場の活動は、マリ人スタッフと育ててきた実践者たちの協力により、問題なく継続できています。

配布用の苗木は実践者から購入

村人の小さな林づくりや、候補者のための乾期植栽に使用する苗木は、このところ実践者たちが行う苗畑より購入することが増えました。小さな林づくりのための苗木配布は、候補者のいる村で行うため、近隣の実践者の苗畑から購入するためです。

近年、バマコの住民が購入した分譲地に植林するケースが多く、実践者のもとにも購入に訪れています。そのため、翌年の雨期前の乾期植栽用の苗木はシーズン中に予約して確保してもらっています。



実践者の苗畑に確保しておいた苗木

新実践者に経験・技術を共有

ここ2年は、毎年候補者の中から毎年5名ずつ新実践者を選抜しています。その際、候補者や新実践者と植栽や育苗などの作業を行っています。この時マリ人スタッフと共に現場で作業を共にしてくれるのが、育ててきた近隣の実践者です。

実践者のうち長い人は、里山再生の活動を始めて8年になります。その間、自身で苗木を育苗し、その苗木を里山に植え育ててきました。初めて作業を経験する候補者や新実践者にとって、同じ道をたどってきた先輩の経験や技術はとても参考になります。根切りを経

験したある新実践者は、「こうすることで、苗木が大きくなり過ぎず、苗畑に置いておくことができる」と感心していました。



スタッフに実践者が同行し、共に作業を行う

想い描く将来像と仲間づくり

先輩実践者たちが里山で行ってきた成果は、そこを訪れた候補者や新実践者の前に現れ、自身が行おうとする里山の将来像を示してくれます。

こうした先輩実践者たちの里山を訪れる交流を、作物の収穫前に一息つける9月に実施しています。交流では、里山見学の他にも、この木はどうやって手に入れたとか、この果樹はどのように育てるのがいいのかとか、実践的な情報の交換も行われます。

この交流も、実践者の協力なしには成り立ちません。こうして情報を交換して経験・知識を共有することで、共に里山再生を担う仲間づくりを行っています。



先輩実践者と候補者が情報を交換する

■新実践者 2022

2022年の新実践者は、9カ村19名の候補者の中から、マリ人スタッフによって5名が選ばれました。彼らは、スタッフや実践者たちからいろいろなことを学びながら、根気よく木を育てています。

①バラシネ・クリバリさん(カソマブグー村)

在来種のカイセドラを畑に植え、保護柵をしました。



苗畑1年目で、苗木の種類と本数が充実していて、トップクラスです。



1年でユーカリがこんなに大きくなるなんて驚きです。



昨年サヘルの森からいただいて植えたユーカリは、もうこんなに大きく育ちました。

②バルー・クリバリさん(ウルフィエナ村)

生垣を作るために、アルヘンナの床播き苗をたくさん作りました



隣村の知人は、私の農園は静かだとミツバチの巣箱を作りに来ました。



③マドゥ・フォンバ(ジィラ)さん(コレカブグー村)



接木を学ぶことができたので、念願のズイス
ィフィス改良種を育てることができます。

みなさんに手伝っていただいて、
立派な苗畑ができました。

以前自分で苗を作りバオバブを
植えました。自家消費して余っ
た葉は市場に出荷しています。



④マドゥ・フォンバ(レケ)さん(グンドウ村)

*同姓同名のマドゥ・フォンバさんが複数いるので、
栽培している在来種の名前で区別しています。

サハルの森に種を分けてもらい在来種
のカイセドラの苗を作っています。

乾期のうちに農園の柵の内側にユーカ
リを植えました。
雨期の雨で大きく育てて欲しいです。



里山にある有用な在来種を
保護しています。



⑤クルバ・ジャラさん(ポリマブグー村)

昨年植えたユーカリが根付かなかったところに新たな苗を補植します。

みなさんのおかげで苗木作りを学ぶことができました。

乾期の日差しは強いので、苗木のために日除け屋根を作ります。



候補者 2023

人口増加、地方分権の推進により、ファナ地域も灌木林の減少に拍車がかかっています。こうした背景をもとに希望者は増え、2023年の候補者は16カ村19名となりました。

今年は地域的な偏りを是正して、新実践者が広い範囲に分布できるように、地域的にも配慮しました。



女性の候補者の農園で苗木を植栽する



カソマブグーの試験地を訪れた候補者たち

10～11月にかけて、候補者たちがこれまでの樹木の管理状況や里山の状況（保護柵などの状態）などを評価して、12月に今年の「新実践者」5名を選抜します。

■ファナの生活

ファナの農業

ファナ地域の年間降水量は800mm程度で、雨期の雨を利用してトウジンビエやソルガムなどの雑穀はもちろんのこと、トウモロコシを栽培できます。これらを粉にして湯の中で練り上げたものがトウという主食です。これをオクラやバオバブの葉のソースで食べます。また、この地域ではほとんど栽培されていませんが、コメも購入してソースをかけたり炊き込んだりして主食として食べています。



左から、トウ、ソースご飯、ショウ（豆）

一方で、換金作物として彼らに一番重要なのは綿花です。ファナにはCMTD（マリ繊維開発会社）の工場があり、村で雨期に栽培された綿花は乾期に収穫され、CMTDのトラックで集荷されていきます。CMTDからは種子、肥料、農薬などが支給され、それらの代金は出荷された綿花の代金から差し引かれます。



CMTDによる綿花の集荷

また多くの農家がウシ、ヤギ、ヒツジ、ニワトリ、ロバなどの家畜を飼っています。家畜は財産であり、ウシ、ロバなどは耕起や運搬にも使う役畜でもあります。

マリの物価上昇

マリも日本と同じく物価が上昇しています。世界情勢に影響され、燃料の価格が上昇し、それが多くの消費財に影響しています。

表 生活品の価格の推移

| 品目 | 2019年 | 2022年 | 2023年 |
|----------------|--------|--------|--------|
| コメ(100 kg) | 17,000 | 18,000 | 23,000 |
| ソルガム(100 kg) | 10,000 | 12,000 | 13,500 |
| トウジンビエ(100 kg) | 12,500 | 14,000 | 15,000 |
| トウモロコシ(100 kg) | 11,500 | 13,000 | 13,500 |
| フランスパン | 250 | 300 | 300 |
| 牛肉(1kg) | 2,400 | 3,000 | 3750 |
| マトン(1kg) | 2,700 | 4,000 | 4,250 |
| タマネギ(1kg) | 500 | 600 | 1,000 |
| ジャガイモ(1kg) | 600 | 700 | 1,300 |
| ピーナッツ油(1L) | 550 | 750 | 1,000 |
| 砂糖(1kg) | 500 | 650 | 750 |
| ネスカフェ缶(50g) | 500 | 500 | 600 |
| リプトン(10袋) | 250 | 300 | 300 |
| イワシ缶 | 300 | 350 | 400 |
| ガソリン(1L) | 500 | 800 | 900 |
| 軽油(1L) | 630 | 840 | 864 |

*単位はCFAフラン。1CFAフラン=約0.25円

昨年のマリは干ばつ傾向にあり、作物も不作になりました。そのため穀類の価格の上昇は顕著で、この端境期は非常に厳しい状態でした。今年については、雨期の降り始めが遅かったものの、その後の降雨は順調に続き、降雨の期間も長かったために、多くの収穫が見込まれそうです。



モロッコから輸入されるタマネギ

また、タマネギなど生鮮の輸入食材は高騰していて、2倍に跳ね上がっています。一方でパンの値段は統制されていて大きな値上がりはしていません。

ファナの小学校

ファナ地域では子供の数も増え、以前に比べて多くの小学校が設置されるようになりました。援助により立派な校舎が建てられることもあれば、村出身の篤志家が資金を出して建設される場合もあります。

教師は基本的に政府から派遣されますが十分ではなく、保護者が教師の給料を出し合っ

て教師を迎えることもあります。以前にJICAのプロジェクトでもありましたが、国の方針で、校舎や机・椅などの機材の修理など、学校の維持管理を行う学校運営委員会が生徒の保護者たちによって組織されています。サヘル



マリマリの小学校のクラス

女性と薪炭

ファナ地域で薪炭を日常的に利用し伐採するのは女性だと言われています。都市人口の増加により、都市部での薪炭の需要は著しく増加しています。それはファナ地域の幹線道

路沿いの薪炭が積み上げられ、ひっきりなしに都市へと運ばれていくことでも見て取れます。その結果として、都市近郊の里山の灌木林は疲弊して、日々の薪材を得るのも苦勞している状況にあります。



女性による薪炭材の伐採

しかし、そうした都市の事情だけでなく、農村側にも里山の疲弊に加担する事情が存在しています。本来なら稼ぎ頭の男性が食事にかかる調味料のなどの材料費や子供の衣料費などを負担すべきところを、ファナ地域の半数以上の男性が負担せず、女性に任せているのです。そのため女性たちは、日々材料費などを得るために、里山から薪炭材を伐り出して薪炭に加工し、現金を得ているのです。



女性による販売のための炭焼き

サヘルサヘルの森としては、女性のために、食料となるバオバブや果樹の苗木を配布して、食材費の負担を軽減させようとしています。他にも女性の負担を軽減して、里山の伐採を減らしていく方策を考える必要があります。

マリ、19州に分割、バマコは10地区に拡大

マリは2016年にそれまでの8州からタウデニ州とメナカ州を加えて10州となっていました。このたび新たに9州を加え19州へと分割されました。2012年に当時のトゥレ大統領の下、州分割の法律が成立しましたが、武装勢力による混乱もあって先延ばしとなり、このタイミングで施行されたものです。この分割は、人口が増え、各地方に権限と財源を委譲し、より良い行政サービスを住民に提供するためのものです。

一方、人口が増え続けているバマコも、これまで6地区でしたが、市外域の発展とともに周囲を取り込む形で10地区に拡大しました。首都バマコはさらに発展していくことでしょう。

* 次回機関紙ではマリの治安についてもお伝えします。



Information

募金・カンパにご協力下さい

日頃からサヘルの森の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

マリ国内は治安が再び悪化し、マリ中部・北部で軍と武装勢力との衝突が増えています。

しかし、里山の疲弊は加速し、人々の日常の生活は絶えず続いています。マリ人スタッフを初め、実践者や多くの協力者によって活動は続けられています。彼らの生活を守っていく活動に、ご支援いただけますよう、お願いいたします。

会員募集中

サヘルの森に入会されますと、年数回、機関紙『サヘル』のほか、報告会等のお知らせが届きます。

一般会費 年 5,000 円

維持会費 年 20,000 円

サハラ砂漠南縁・サヘル地域での里山再生活動を継続的に支援いただくためにも、ぜひご入会下さい。

募金・入会のお申し込みは…

振込用紙に

- ①住所
- ②氏名
- ③電話番号
- ④送金内訳(会費、募金など)
- ⑤領収書の要不要

を明記の上、郵便振替で下記口座にお振込みください。

【郵便振替口座】

00170-6-115054

サヘルの森

特定非営利活動法人 サヘルの森

〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3 アーベイン平本 403
TEL:042-721-1601(留守電対応) FAX:廃止しました
ホームページ: <http://www,jca,apc,org/sahel-no-mori/>
E-mail: sahel-no-mori@jca,apc,org

機関紙『サヘル』 ファナ特集号

発行:2023年11月6日
発行人:高津 佳史
編集:榎本 肇